

# 第6回ネパール裁判所能力強化プロジェクト本邦研修

国際協力部教官

廣 田 桂

## 第1 はじめに

2016年11月27日(日)から同年12月10日(土)まで(移動日を含む。), デベンドラ・ゴパール・シュレスタ (Devendra Gopal Shrestha) 最高裁判所判事を団長とする研修員13名<sup>1</sup>を対象に, 第6回ネパール裁判所能力強化プロジェクト本邦研修(以下「本研修」という。)を実施した。

ネパールでは, 訴訟遅延及び犯罪者が適正に処罰されずに野放しになっている「不処罰」の問題が国民の司法に対する信頼を損ねる原因で, 事件管理の改善が大きな課題となっており, また, 裁判所の紛争解決能力の向上のため, 司法調停の活用にも期待が高まっているものの, 制度の理解不足や調停人の能力不足が, その活用促進の障害となっている。

このような事情を踏まえ, ネパール政府から我が国に対し, 事件処理・管理能力の強化や司法調停の活用促進を通じた裁判所の紛争解決能力向上のための支援要請が出され, これを受けて, 2013年9月から3年7か月間の予定で, 独立行政法人国際協力機構(JICA)において, ネパール最高裁判所を主なカウンターパートとして「迅速かつ公平な紛争解決のための裁判所能力強化プロジェクト」(以下「本プロジェクト」という。)を開始した。

本研修は, 本プロジェクトの一環であり, 本研修では, ネパールでの問題解決に役立つようにするため, 日本における刑事及び民事事件管理の講義や, 裁判所訪問等により日本の実務に関する知見を提供するとともに, 実務家との意見交換により, ネパールの実務における問題点の洗い出しや, 日本の制度の特色を伝えることにした。

<sup>1</sup> 研修員は, 別紙1(研修員名簿)のとおり。

## 第2 研修内容<sup>2</sup>

### 1 講義等

#### (1) 家庭裁判所・調停制度

当部の湯川亮教官が, 日本の家庭裁判所・調停制度について概要説明の講義を行った。ネパールでは家庭裁判所に相当する裁判所は無く, 本研修において大阪家庭裁判所を訪問することになっているため, この訪問の前提知識を提供する目的で行ったものである。研修員は, 調停制度についてネパールの制度と対比して積極的に質問するなどし, これらの点についての知識を深めた様子であった。

#### (2) 日本の調停制度の歴史, 調停人トレーニングについて

中京大学法科大学院法務研究科稲葉一人教授から, 「日本の調停制度の歴史や調停人トレーニング」と題して, 日本の調停制度の歴史や概要, 日本とネパールの司法調停制度の比較, ネパールの司法調停における問題点, 調停人のトレーニングの重要性や方法等についてご講義をいただいた。稲葉教授は, 長年にわたり, インドネシアやモンゴル, ネパール等に対する調停制度等に関する法整備支援に関与されており, この豊かなご経験に基づく講義は, 司法調停が機能していないことが問題となっているネパールの研修員にとって, 非常に有意義な様子であった。

#### (3) 比較法的に見た日本の裁判制度の特徴

大阪大学を訪問し, 同大学大学院法学研究科福井康太教授から, 日本の裁判制度の成り立ち, 日本の裁判制度と他国の制度との比較等についてご講義をいただいた。ネパールでは訴訟の遅延が問題となっているところ, 日

<sup>2</sup> 研修日程は, 別紙2(日程表)のとおり。



国際会議室での全体集合写真

本を含む多数国の法制度を比較法的観点から知ることは、同問題の解決・改善のための情報として有意義なものになったものと思われる。

(4) 講義「民事事件管理 争点及び証拠の整理手続」

当部の東尾和幸教官が、争点及び証拠の整理手続等を中心として日本における民事事件管理について講義を行った。ネパールにおいては、争点及び証拠の整理手続が存在せず、これが訴訟遅延の大きな要因の一つとなっているものと考えられるところ、本講義はネパールの研修員にとって非常に有益なものとなった様子であった。

(5) 講義「刑事事件管理」

当部の伊藤淳教官が、日本における、捜査段階における検察官の役割、公判前整理手続等、日本における刑事事件管理の工夫について講義を行った。ネパールにおいては、民事手続同様に刑事手続においても争点整理手続が存在しないため、公判前整理手続等の制度や概念は、研修員にとって有益な情報であった。

(6) 講義「検務事務の流れ」

大阪地方検察庁総務部の藤川浩司副部長か

ら、検察庁における事件の受理や証拠品の受理・保管方法などの検務事務全般に関する講義をいただき、その後、同庁における証拠品倉庫、記録倉庫等の見学を行った。ネパールにおいては、証拠品や記録の保管の杜撰さが問題となっており、我が国における証拠品に関する講義や施設見学で、非常に刺激を受けた様子であった。

(7) ネパール側発表

ネパールの代表者から、現在作成中の事件管理ガイドラインやネパールにおける調停制度、特別裁判所について発表があり、これらについて意見交換を行った。事件管理ガイドラインについては、本プロジェクトの成果の一つであり、これについて大阪大学法科大学院吉野孝義客員教授と共に意見交換ができたことは本プロジェクトにとって極めて大きな意味があった。

## 2 訪問

### (1) 大阪家庭裁判所訪問

大阪家庭裁判所を訪問し、裁判官、書記官、調査官から、家庭裁判所の業務の概要、調査官の役割等について、講義をいただいた。ネパールでは家庭裁判所に相当する裁判所は存在しないが、研修員は、家事事件等に特化し

た家庭裁判所の有用性について認識したようで、現在作成中の事件管理ガイドラインにも盛り込みたいとの意見が出された。

#### (2) 大阪地方裁判所訪問

大阪地方裁判所を訪問し、民事事件の法廷傍聴や、裁判官との意見交換を行った。ネパールにおいては、民事事件において、弁護士が長々と弁論をすることが多く、これが訴訟遅延の一因となっているところ、本邦における法廷傍聴において、多くの事件が短期間のうちに迅速に処理されている様子を見られたことは非常に有意義だったと考えられる。

#### (3) 東京簡易裁判所訪問

東京簡易裁判所を訪問し、略式命令手続に関する講義、裁判官等との意見交換を行った。ネパールの実務においては、刑事事件において、不起訴処分は極めて限定的にしか認められておらず、大半の事件が公判請求され、これが訴訟遅延の一因となっていると考えられるところ、我が国における略式命令手続についての知見を得たことは、今後のネパールにおける制度の改善等を考える上で、有用であったと考えられる。

#### (4) 最高裁判所訪問

最高裁判所を訪問し、法廷見学等を行い、

あわせて、最高裁判所における業務の概要、上告受理件数等についてのご説明をいただいた。

#### (5) 日本弁護士連合会訪問

日本弁護士連合会を訪問し、同会国際交流委員会委員の矢吹公敏先生から、日本の法曹の沿革、法曹三者の実務上の連携の取組についてご講義いただいた。

ネパールにおいては、裁判官、検察官、弁護士の連携は限定的にしか見られないとのことであり、日本における法曹三者の連携の取組について知見を得られたことは、今後のネパールの制度等の改善に有益なものになったと思料される。

### 第3 おわりに

最後に、本研修が充実したものとなったのは、関係者の皆様のご協力とご尽力のおかげであることは言うまでもなく、改めて、講師の先生方、裁判所、日本弁護士連合会の皆様、通訳人野津治仁氏及び湊・シャルマ・ジャヤンティ氏、富田さとし JICA 長期派遣専門家、JICA 及び公益財団法人国際民商事法センターの皆様、その他多くの関係者の方々に、心から御礼を申し上げたい。

ネパール裁判所能力強化プロジェクト第6回本邦研修員名簿

別紙 1

1	デベンドラ ゴパール シュレスタ
	Mr. Devendra Gopal Shrestha
	最高裁判所判事
2	アニル クマール シナ
	Mr. Anil Kumar Sinha
	最高裁判所判事
3	プラバ バスネット
	Ms. Prabha Basnet
	特別裁判所判事
4	カドガ バハドウル シュレスタ
	Mr. Khadga Bahadur Shrestha
	ジャナクプル高等裁判所ビルガンジ支部事務局長
5	カドガラージュ アディカリ
	Mr. Khadgaraj Adhikari
	トウルシプル高等裁判所ネパールガンジ支部事務局長
6	ダルマ ラージュ ポウデル
	Mr. Dharma Raj Paudel
	カトマンズ地方裁判所判事
7	ジャガト ナラヤン プラダーン
	Mr. Jagat Narayan Pradhan
	ラスワ地方裁判所判事
8	ラジェンドラ クマール アーチャールヤ
	Mr. Rajendra Kumar Acharya
	ダヌンチャ地方裁判所判事
9	コマル プラサッド アーチャールヤ
	Mr. Komal Prasad Acharya
	ダン地方裁判所判事
10	サイレンドラ クマール ダハール
	Mr. Shailendra Kumar Dahal
	最高裁判所弁護士会長
11	ラジェツソル アルヤール
	Ms. Rajeshwar Aryal
	ダン地方検察庁検察官
12	シャクンタラ カルキ
	Ms. Shakuntala Karki
	最高裁判所書記官
13	クリシュナ プラサッド アディカリ
	Mr. Krishana Prasad Adhikari
	カブレバランチョーク地方裁判所事務局長

【研修担当/Officials in charge】

教官(Professor) / 廣田 桂(HIROTA Kei), 東尾 和幸(HIGASHIO Kazuyuki), 湯川 亮(YUKAWA Ryo)  
 国際協力専門官(Administrative Staff) / 岸田 俊輔(KISHIDA Shunsuke)

## ネパール裁判所能力強化プロジェクト第6回本邦研修日程表

別紙 2

[教官: 廣田教官, 東尾教官, 湯川教官 専門官: 岸田専門官]

月日	曜日	10:00 12:30	14:00 17:00	備考	
11	日	移動日			
11	月	10:30~12:00 JICAオリエンテーション  会議室	14:00~14:45 ICDオリエンテーション 国際協力専門官 岸田俊輔  会議室	15:00~17:00 講義 「日本の家庭裁判所・調停制度」 国際協力部教官 湯川 亮  会議室	
11	火	10:00~12:30 講義「日本の調停制度の歴史, 調停人トレーニングについて」 中京大学法科大学院法務研究科教授 稲葉一人  会議室	13:45~16:00 講義「比較法的に見た日本の裁判制度の特徴」/大阪大学見学 大阪大学大学院法学研究科 教授 福井康太  大阪大学		
11	水	10:00~12:00 大阪家庭裁判所訪問  大阪家庭裁判所	14:00~15:30 講義「日本の司法行政」 国際協力部教官 廣田 桂  会議室	15:45~16:45 ネパール側発表 「特別裁判所の役割・機能」 ネパール研修員代表 会議室	
12	木	10:00~12:00 ネパール側発表「事件管理ガイドライン」 ネパール研修員代表 大阪大学法科大学院客員教授 吉野孝義 会議室	12:15~13:45 部長主催意見交換会 記念撮影  大阪大学法科大学院客員教授 吉野孝義 会議室	14:00~17:00 ガイドラインについての意見交換  大阪大学法科大学院客員教授 吉野孝義 会議室	
12	金	10:00~12:30 講義「民事事件管理 争点及び証拠の整理手続」 国際協力部教官 東尾 和幸  会議室	14:00~17:00 講義「刑事事件管理」 国際協力部教官 伊藤 淳  会議室		
12	土	移動日			
12	日	移動日			
12	月	10:00~12:00 大阪地方裁判所訪問  大阪地方裁判所	14:00~17:00 講義「検務事務の流れ」/大阪地方検察庁見学 大阪地方検察庁総務部副部長 藤川浩司  会議室		
12	火	10:00~12:15 ネパール側発表「調停制度について」 ネパール研修員代表 大阪大学法科大学院客員教授 吉野孝義 中京大学法科大学院法務研究科教授 稲葉一人 国際会議室	13:30~15:45 意見交換  大阪大学法科大学院客員教授 吉野孝義 中京大学法科大学院法務研究科教授 稲葉一人 国際会議室		
12	水	移動(大阪-東京)			
12	木	11:45~12:15 最高裁判所訪問  最高裁判所	14:05~15:05 訪問 15:15~17:00 講義 日本弁護士連合会訪問・講義 矢吹公敏弁護士 日本弁護士連合会		
12	金	10:00~12:30 総括質疑 国際協力部教官 廣田 桂 JICA東京国際センター(TIG)	12:45~13:15 評価会・修了式 JICA東京国際センター(TIG)		
12	土	移動日			

※会議室: 大阪中之島合同庁舎911号室(司法修習生研修室)